

まちづくりに関する大学生アンケート 調査結果に基づく分析

期 間：R元. 6. 10～R元. 6. 21

対 象：市内大学に通う学部1～4年生

配 布：1,063人（上教大：678人、看護大385人）

回 収：620人（上教大：475人、看護大145人）

回答率：58.3%（上教大：70.1%、看護大37.7%）

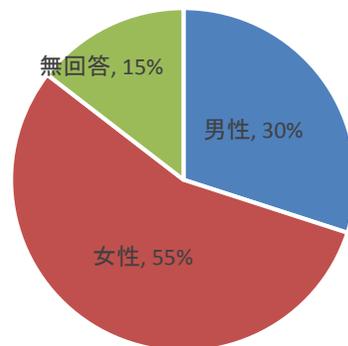
アンケート回答者の傾向

- アンケートの回答率は、全体で58%。性別ごとの回答率は、無回答を除くと男性、女性ともに約50%。
- 全体における性別の回答割合は、男性30%、女性55%、無回答15%。市内大学においては、女性の学生が多いため、回答割合は女性が多い。
- 回答者の学年は、学部1年生が34%、2年生が38%、3年生が24%、4年生が4%。

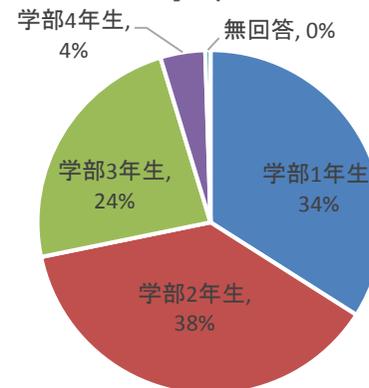
性別ごとの回答率

	回答数	配布数	
男	186	374	49.7%
女	344	689	49.9%
無回答	90	0	
全体	620	1,063	58.3%

全体における性別の回答割合

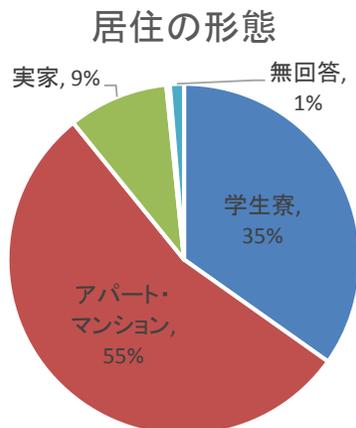
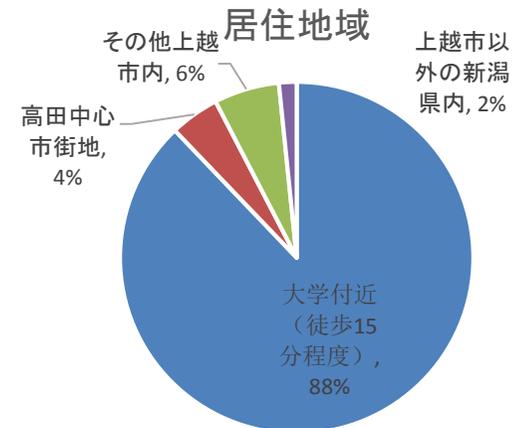
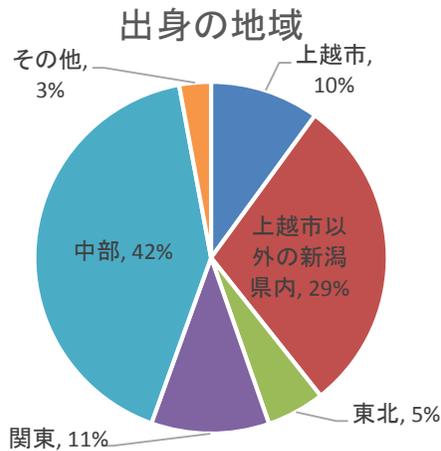


学年



アンケート回答者の傾向

- 出身の地域は、中部地方が42%と最も多く、次いで上越市以外の新潟県内が29%、上越市出身者は10%。
- 現在の居住地は、大学付近（徒歩15分程度）が全体の88%を占める。
- 居住の形態は、アパート・マンションが55%と最も多く、次いで学生寮が35%。

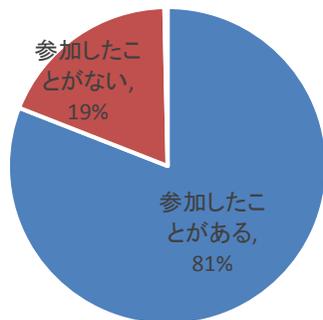


地域活動・ボランティア活動の参加意向

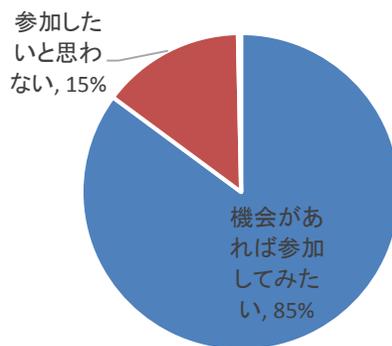
地域活動・ボランティア活動の参加意向(全体)

- これまで地域活動・ボランティア活動に参加したことがある学生は81%であり、今後の在学中の予定についても85%の学生が「機会があれば参加してみたい」と回答している。
- 参加したいと思わないと回答した学生に、参加したいと思わない理由を尋ねたところ、「時間や精神的な余裕がないから」が72%、「興味や必要性を感じないから」が20%であった。
- どのような分野に参加したいと思うか確認したところ、「幼児・児童・生徒支援」が76.5%と多く、次いで「イベント関連」が41.7%であった。

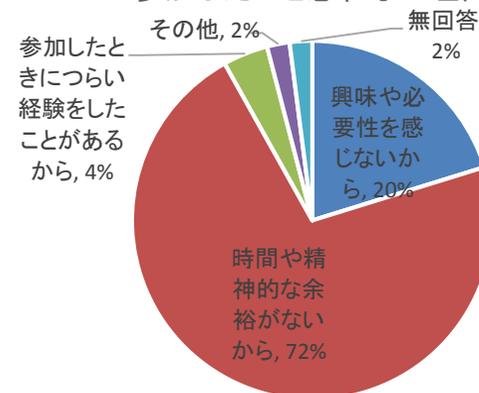
地域活動・ボランティアについて
(これまで)



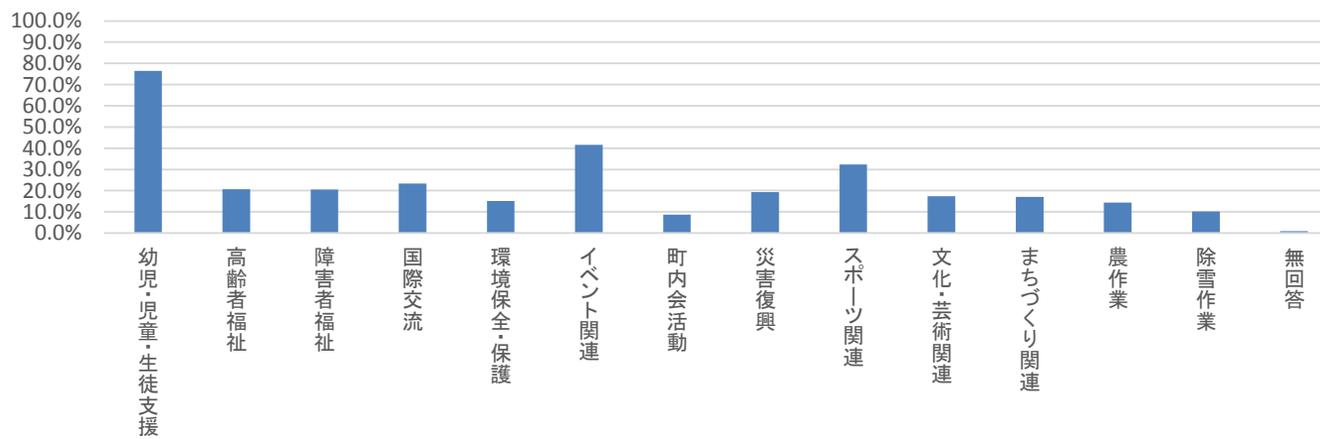
地域活動・ボランティアについて
(在学中の予定)



参加したいと思わない理由



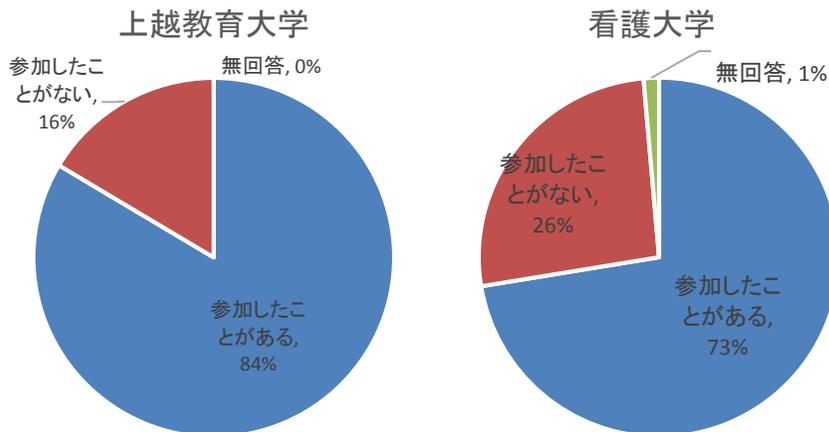
どのような分野に参加したいと思いますか(複数選択)



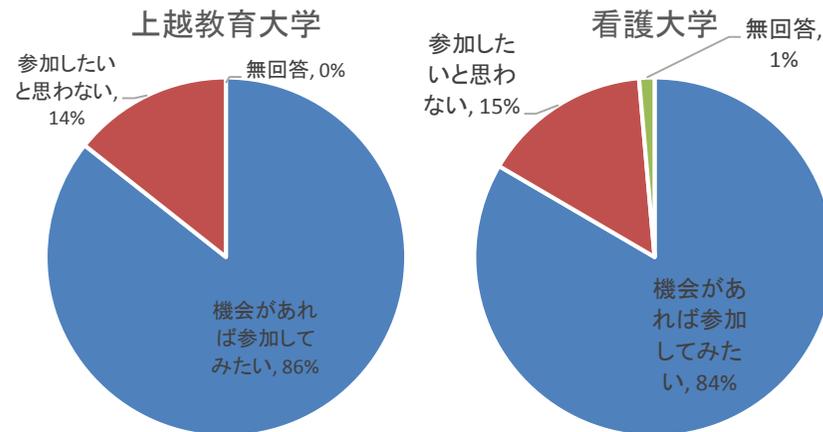
地域活動・ボランティア活動の参加意向(大学別)

- 大学別にみると、これまで参加したことがある割合は、上越教育大学で84%、看護大学で73%。
- どのような分野に参加したいと思うかという問いに対しては、上越教育大学で「幼児・児童・生徒支援」、看護大学で「高齢者福祉」「障害者福祉」の割合が高く、各大学の専門的な分野を希望する学生が多い。また、上越教育大学では、「スポーツ関連」「まちづくり関連」の分野も相対的に高い。

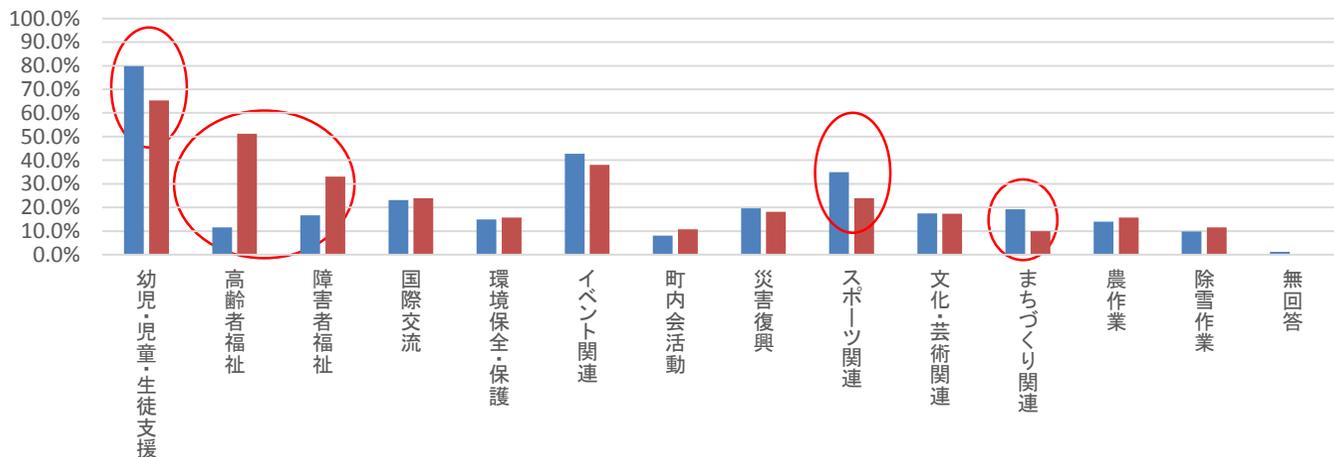
地域活動・ボランティア活動について(これまで)



地域活動・ボランティア活動について(在学中の予定)



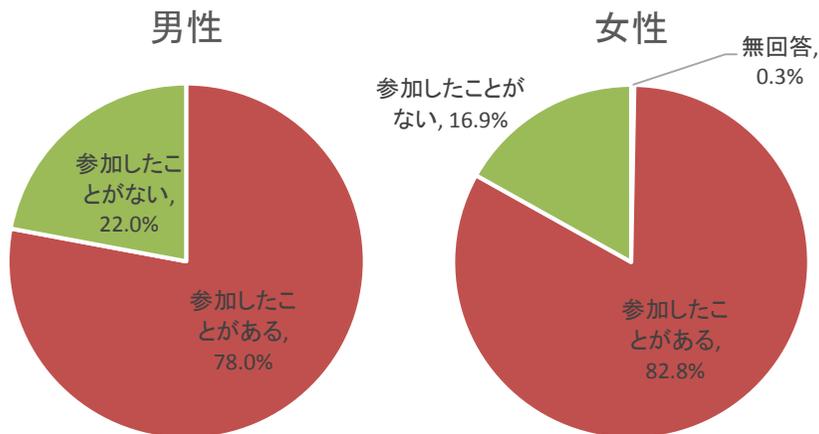
どのような分野に参加したいと思いますか(複数選択)



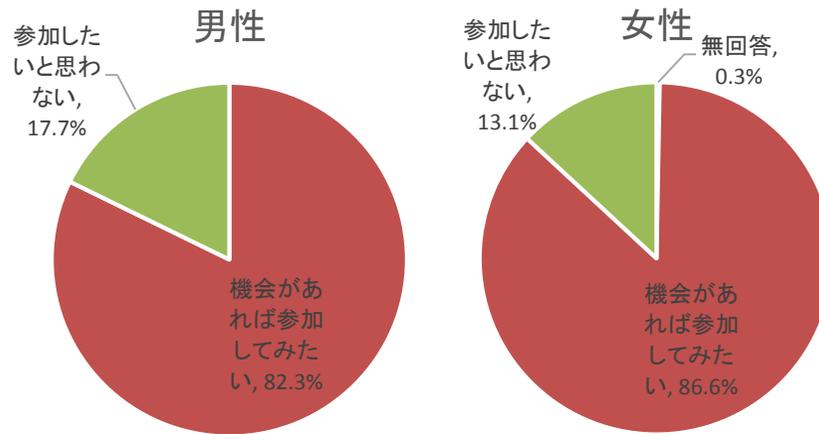
地域活動・ボランティア活動の参加意向(男女別)

- 男女別にみると、これまで参加したことがある割合、今後の在学中の予定ともに女性の割合が高い。
- どのような分野に参加したいと思うかという問いに対しては、相対的に男性では「スポーツ関連」「まちづくり関連」が高く、女性では「幼児・児童・生徒支援」「高齢者福祉」「障害者福祉」「イベント関連」が高い。

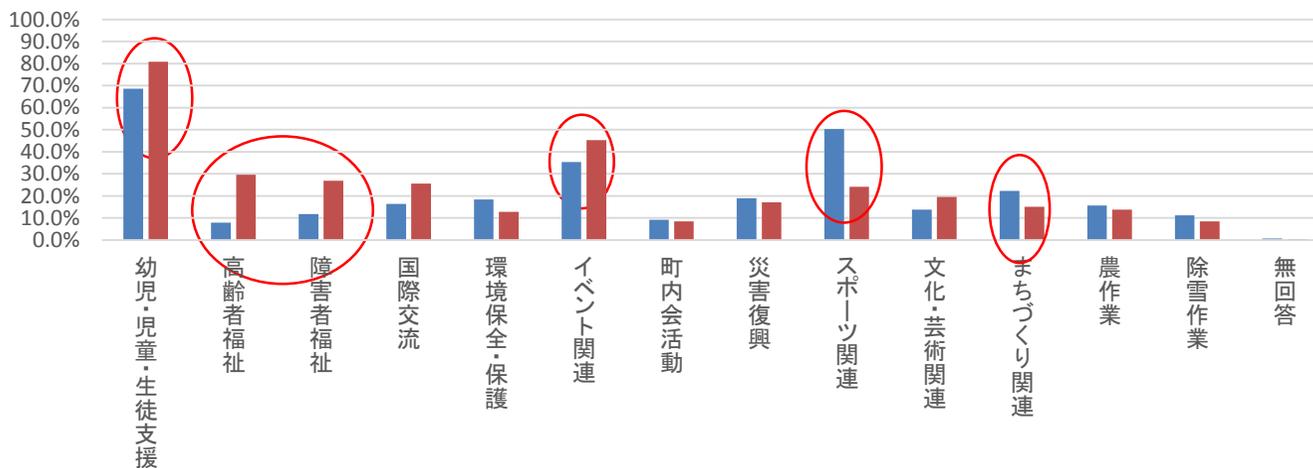
地域活動・ボランティア活動について(これまで)



地域活動・ボランティア活動について(在学中の予定)



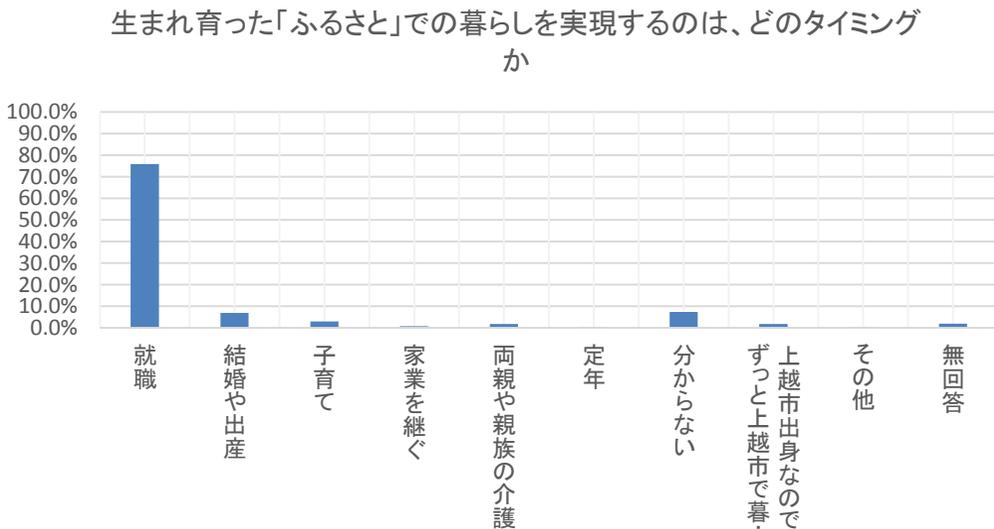
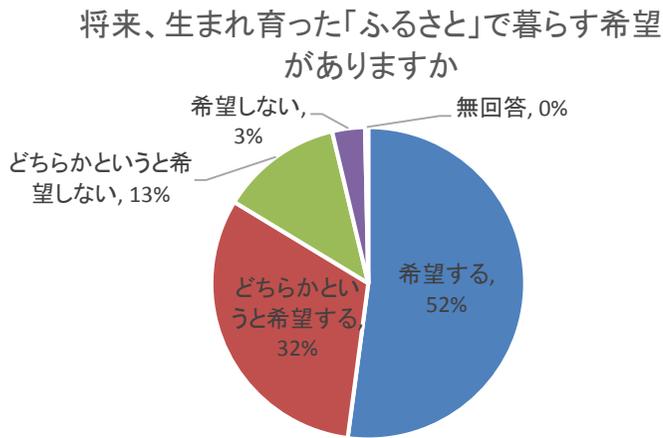
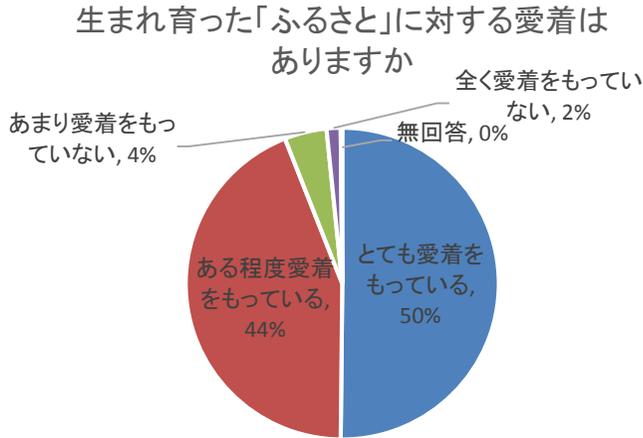
どのような分野に参加したいと思いますか(複数選択)



生まれ育ったふるさとについて

生まれ育ったふるさとについて

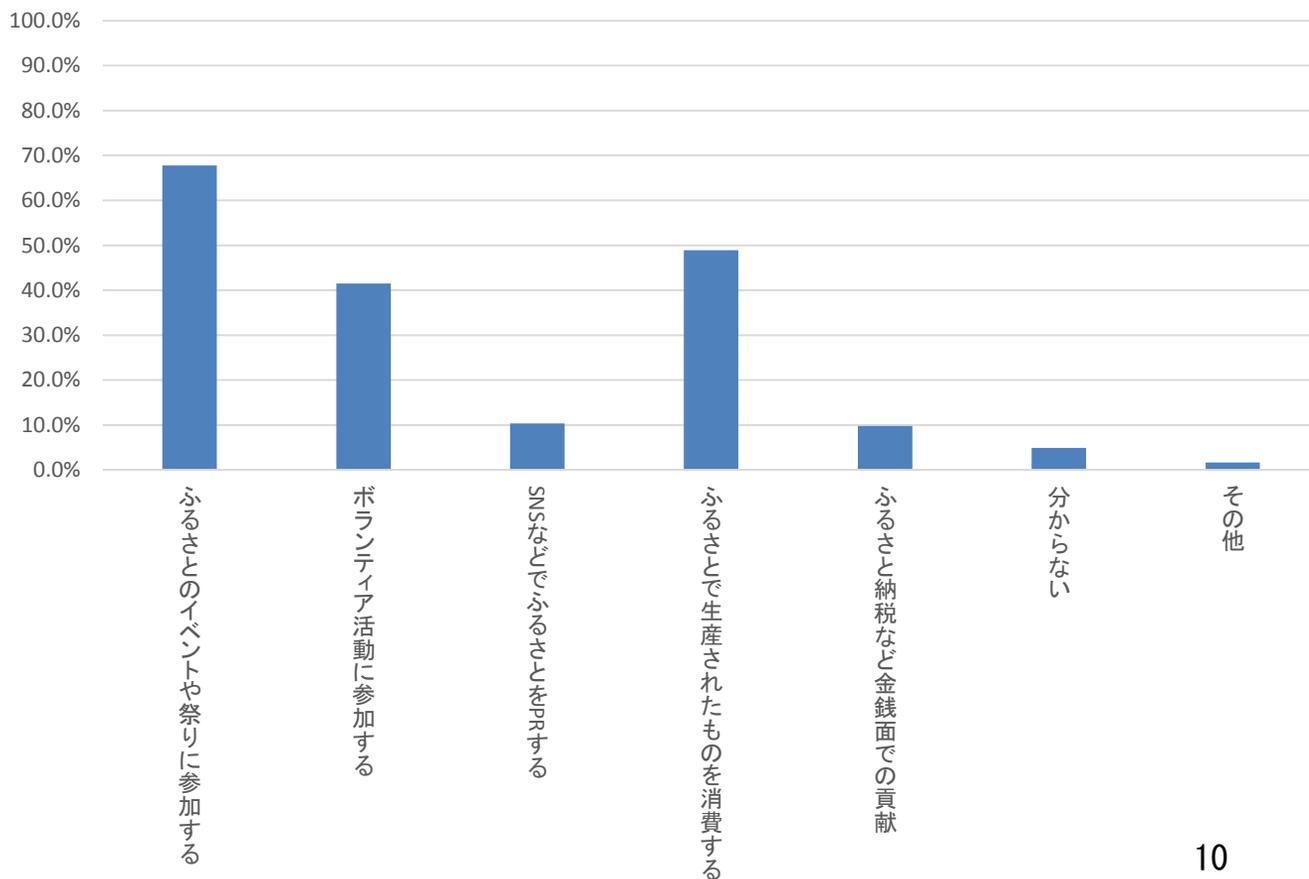
- 生まれ育ったふるさとへの愛着を聞いたところ、「とても愛着をもっている」「ある程度愛着をもっている」と回答した人の割合が90%を超えている。
- 将来、生まれ育った「ふるさと」で暮らす希望があるか聞いたところ、「希望する」「どちらかという希望する」と回答した人は84%。
- 「ふるさと」での暮らしを実現するタイミングを聞いたところ、「就職」が最も多く、約76%。



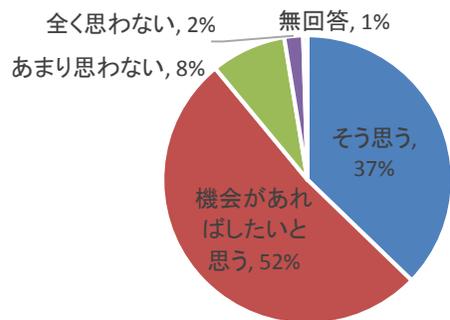
ふるさとに関わる活動の意向について

- 今後、「ふるさと」に関する活動や、貢献する活動をしたかという問いに対しては、「そう思う」「機会があればそうしたいと思う」と回答した人が約90%。
- さらに、どのような活動をしたかという問いに対しては、「ふるさとのイベントや祭りに参加する」が約70%で最も多く、次いで「ふるさとで生産されたものを消費する」が約50%、「ボランティア活動に参加する」が約40%となった。

どのような活動をしたと思いますか(複数選択)



今後、「ふるさと」に関する活動や、貢献するような活動をしたと思いますか



ふるさとへの愛着向上の必要性

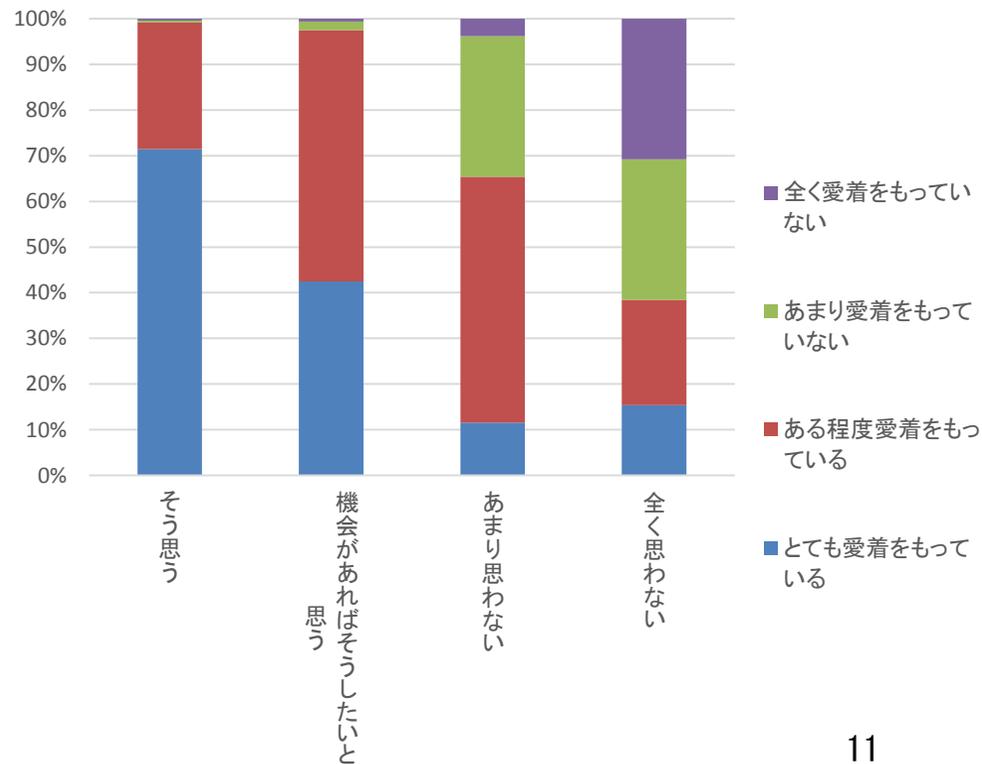
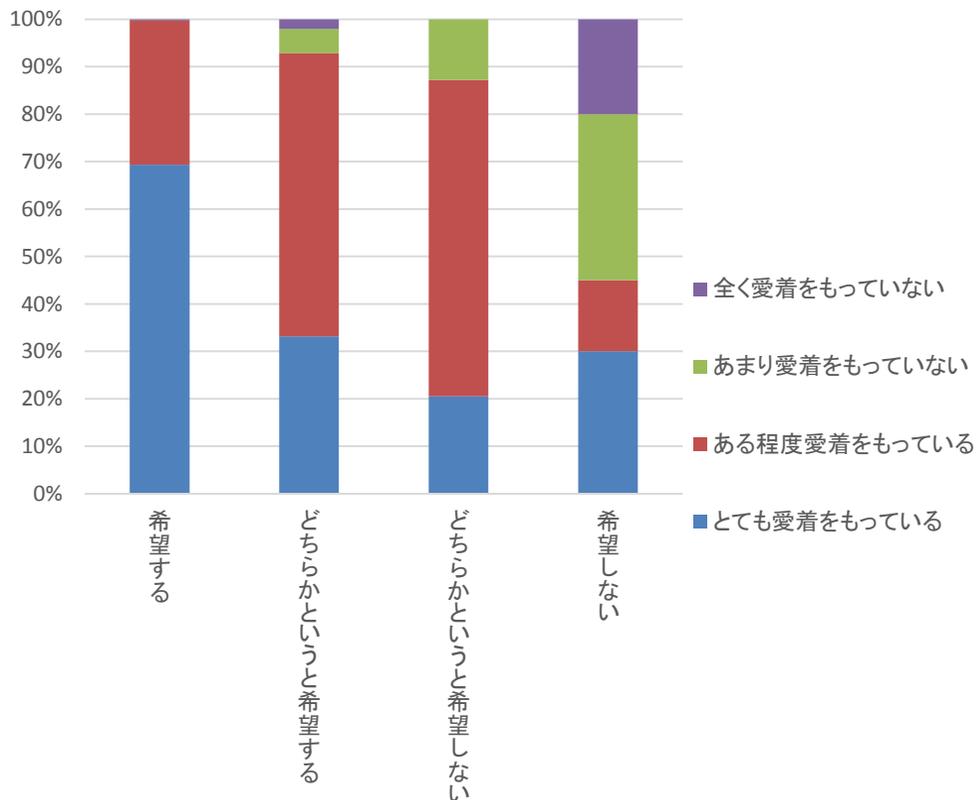
- 「ふるさとへの愛着」と「将来、ふるさとで暮らす希望がある」および「ふるさとへの愛着」と「今後、ふるさとに関わる活動や、貢献する活動をしたい」という気持ちに相関関係を確認。



大学進学でふるさとを離れる人のUターンや、将来に渡ってふるさとへの関わりを持ち続けてもらうためには、ふるさとに対する愛着を高める取組や大学入学後に上越市とのつながりを維持することが重要

「ふるさとへの愛着」と「将来、ふるさとで暮らす希望がある」の関係

「ふるさとへの愛着」と「ふるさとに関わる活動や、貢献するような活動をしたい」の関係

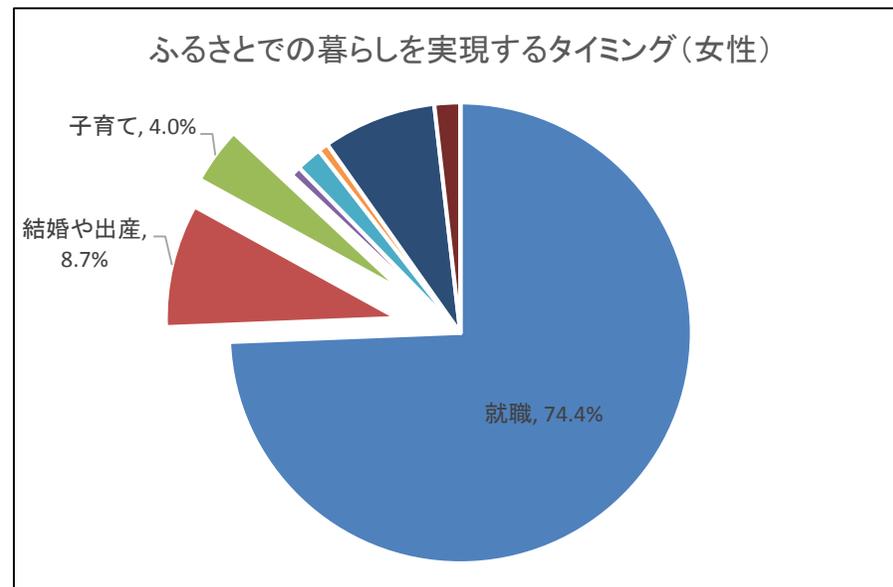
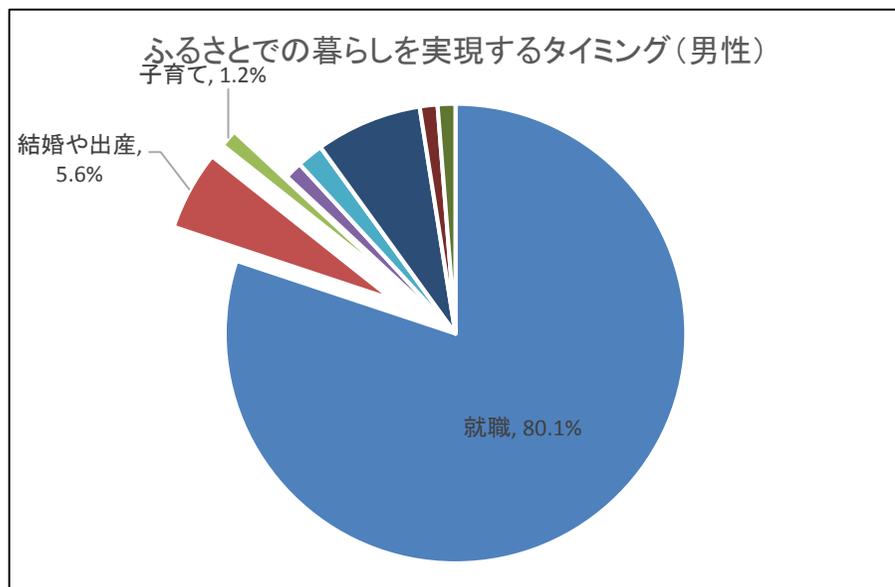


ふるさとでの暮らしを実現するタイミング(男女別)

- 「ふるさとでの暮らしを実現するタイミング」は、男女ともに「就職」が最も高い。
- 女性は、学生の段階でも「結婚や出産」「子育て」のタイミングでUターンを考えている人が一定程度存在し、男性よりも割合が高い。



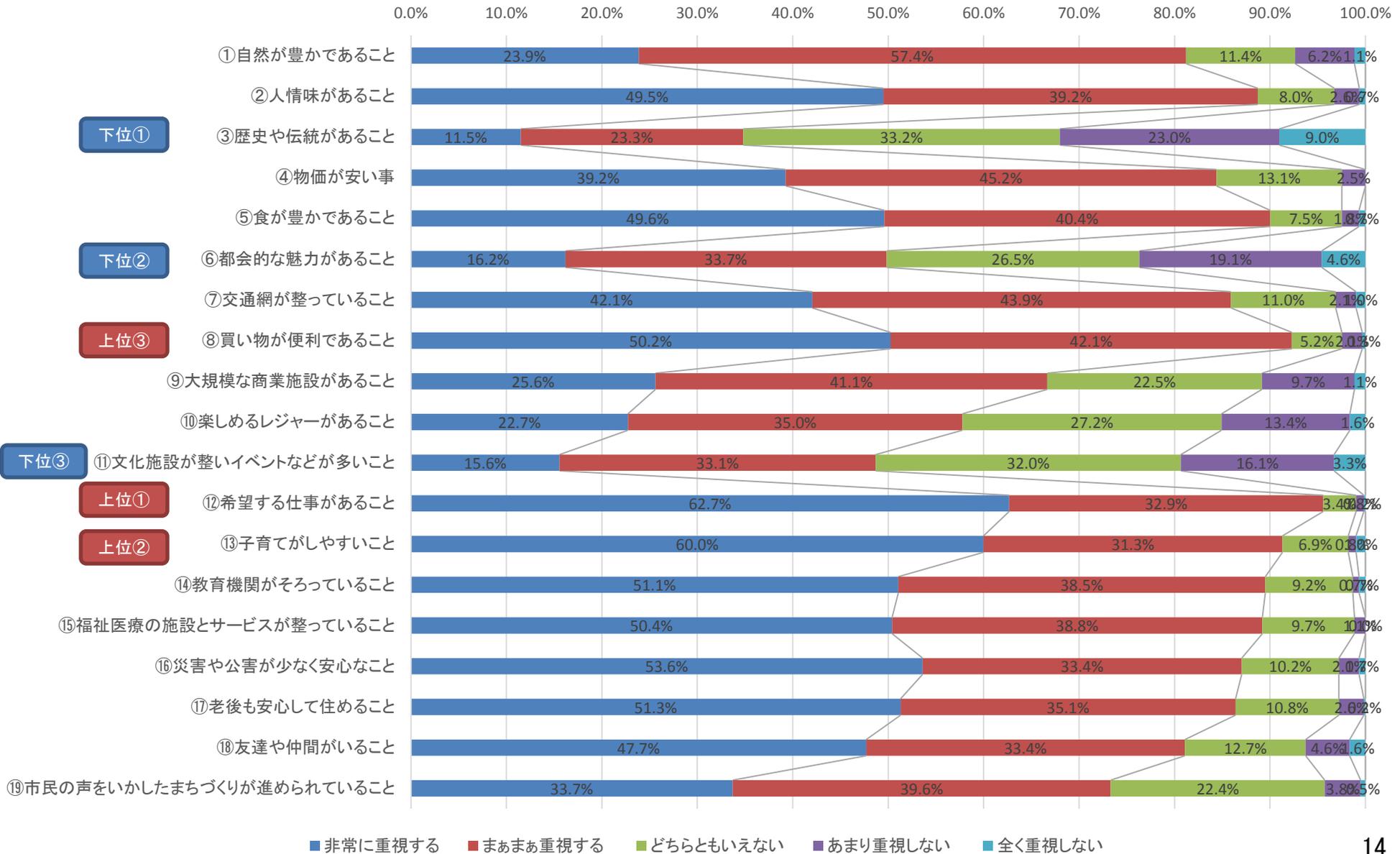
- ・ 就職するタイミングでふるさとに帰りたいと考える学生が多いことから、**若者が働きたいと思う魅力ある雇用づくりや、大学進学で当市を離れた学生への情報発信が重要**
- ・ 女性に対しては、**結婚や出産、子育てのタイミングでUターンがしやすい取組や情報発信が重要**



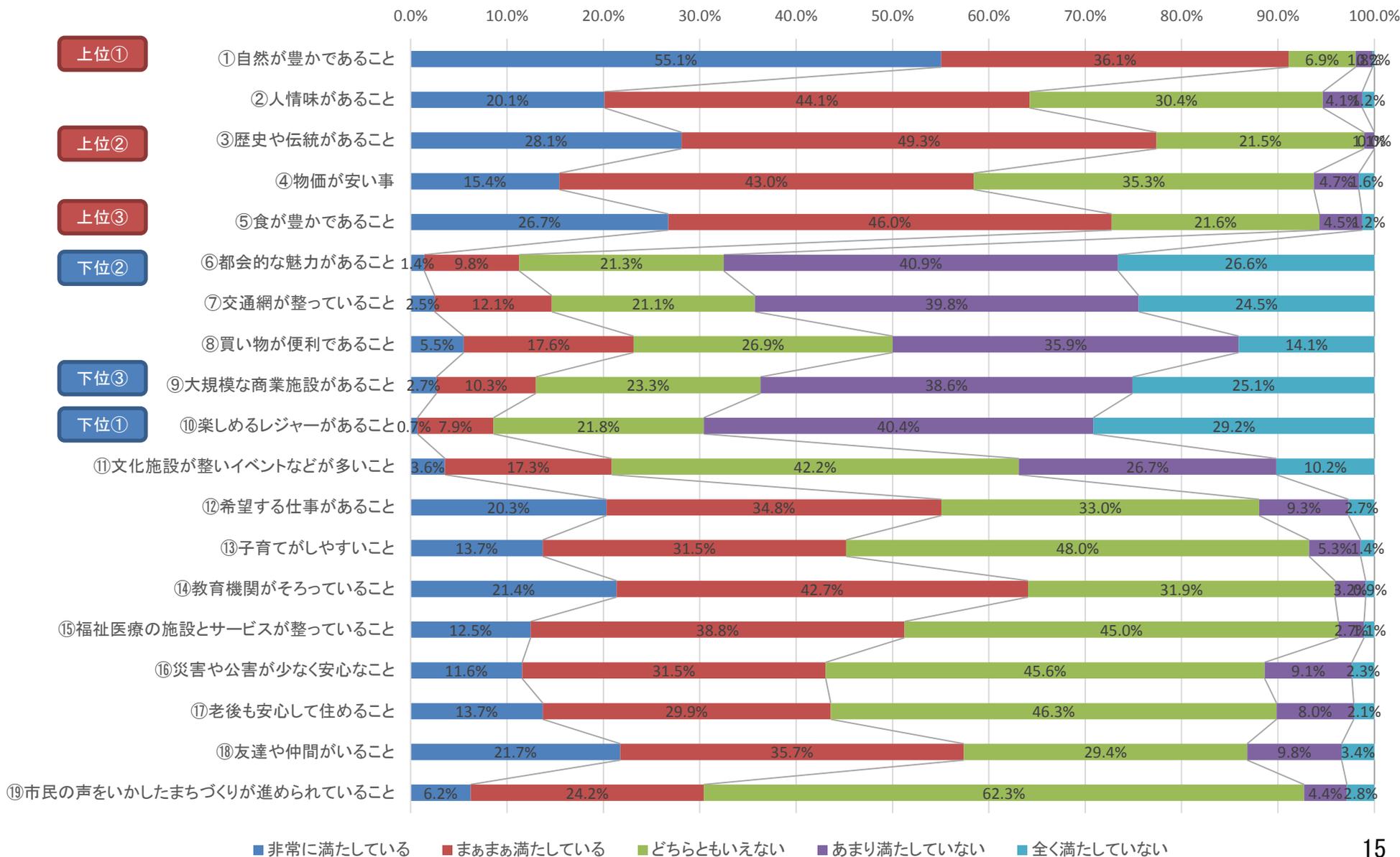
『将来住んでみたいまち』のイメージと、 上越市に対する評価について

将来定住するまちを選ぶときの重視度(全体)

将来定住するまちを選ぶときの重要度



上越市はどの程度満たしているか



重視度と満足度の関係性(全体)

指数の算出方法

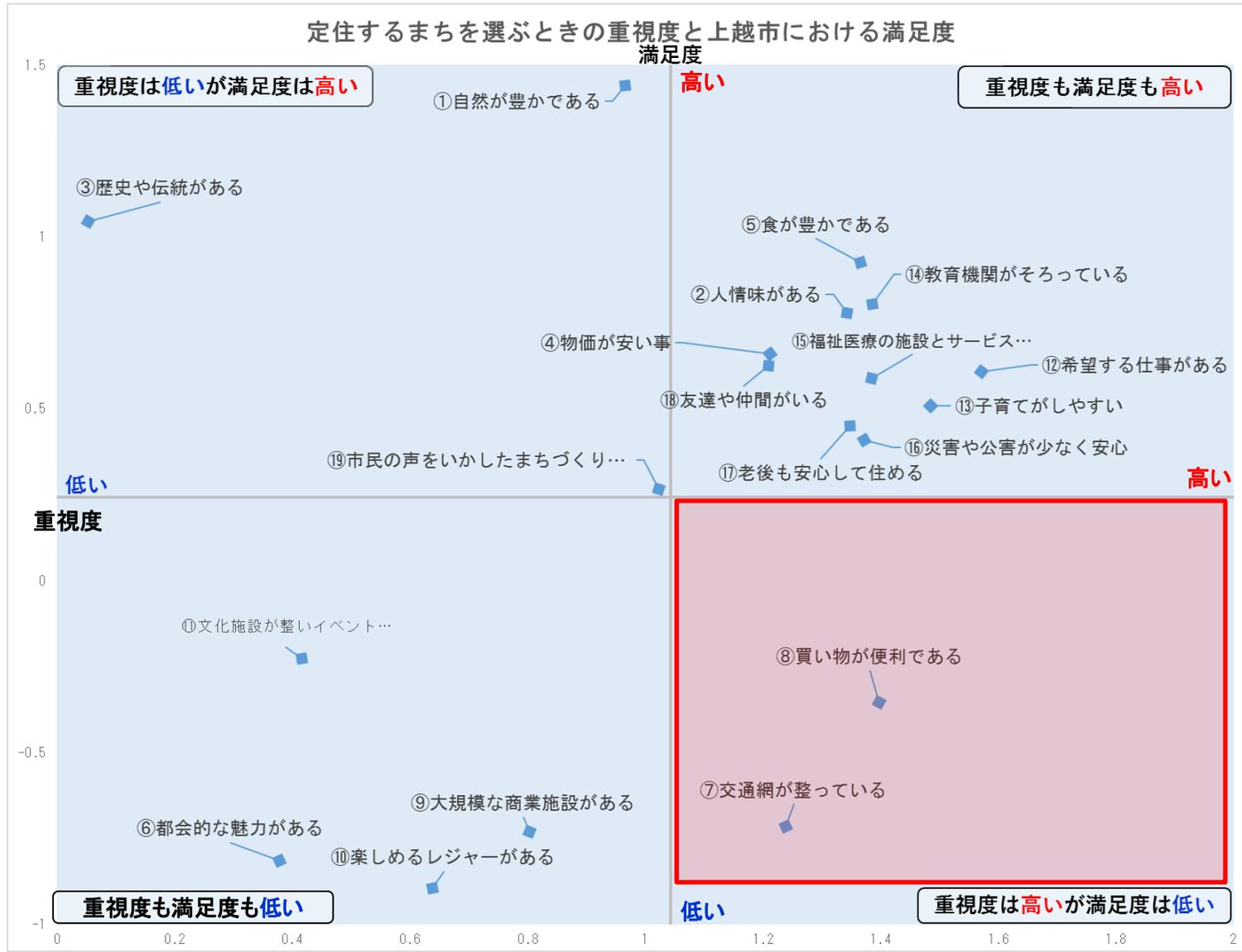
- ・重視度の指数は、「非常に重視する」に+2、「まあまあ重視する」に+1、「どちらともいえない」に0、「あまり重視しない」に-1、「全く重視しない」に-2をそれぞれ回答数にかけ合わせ、算出したものである。
- ・満足度の指数も同様に、「非常に満たしている」に+2、「まあまあ満たしている」に+1、「どちらともいえない」に0、「あまり満たしていない」に-1、「全く満たしていない」に-2をそれぞれ回答数にかけ合わせ、算出している。

	A 重視度		B 満足度	
	指数	順位	指数	順位
希望する仕事がある	1.571195	1	0.607843	8
子育てがしやすい	1.485246	2	0.507117	10
買い物が便利である	1.397709	3	-0.35409	15
教育機関がそろっている	1.386252	4	0.80427	4
福祉医療の施設とサービスが整っている	1.384615	5	0.588968	9
災害や公害が少なく安心	1.372131	6	0.409253	12
食が豊かである	1.364975	7	0.925134	3
老後も安心して住める	1.347541	8	0.450178	11
人情味がある	1.343137	9	0.77758	5
交通網が整っている	1.238953	10	-0.71607	16
物価が安い事	1.211823	11	0.659498	6
友達や仲間がいる	1.208882	12	0.625668	7
市民の声をいかしたまちづくりが進められている	1.022913	13	0.265125	13
自然が豊かである	0.965686	14	1.440497	1
大規模な商業施設がある	0.802956	15	-0.73132	17
楽しめるレジャーがある	0.638298	16	-0.89445	19
文化施設が整いイベントなどが多い	0.416393	17	-0.22638	14
都会的な魅力がある	0.377451	18	-0.81429	18
歴史や伝統がある	0.052545	19	1.044484	2
平均値	1.042482		0.241253	

重視度と満足度の関係性(全体)

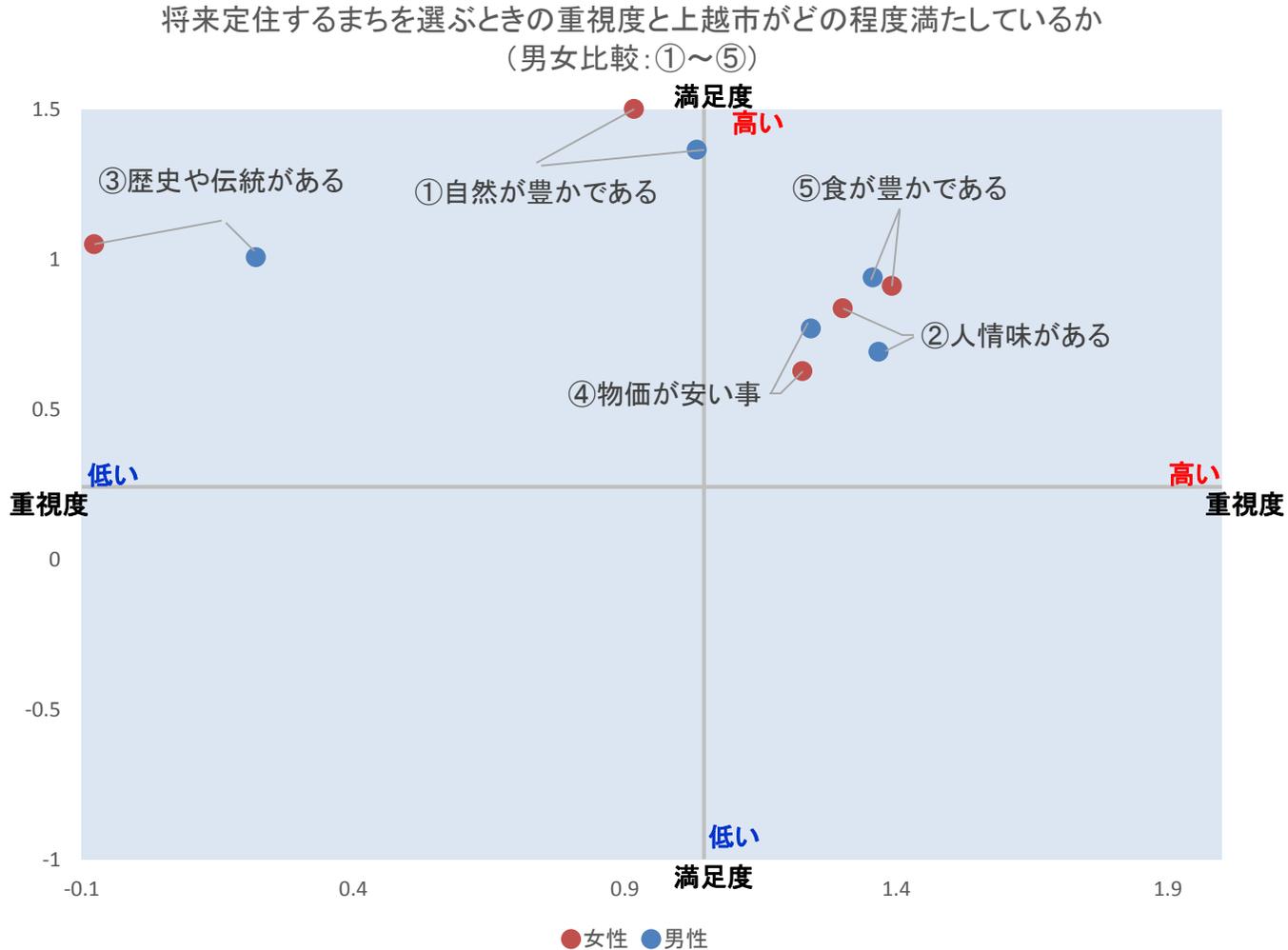
プロット図の見方

・縦軸に満足度の平均値(1.042482)、横軸に重視度の平均値(0.241253)を取り、各項目を表したものである。



重視度と満足度の関係性(男女比①)

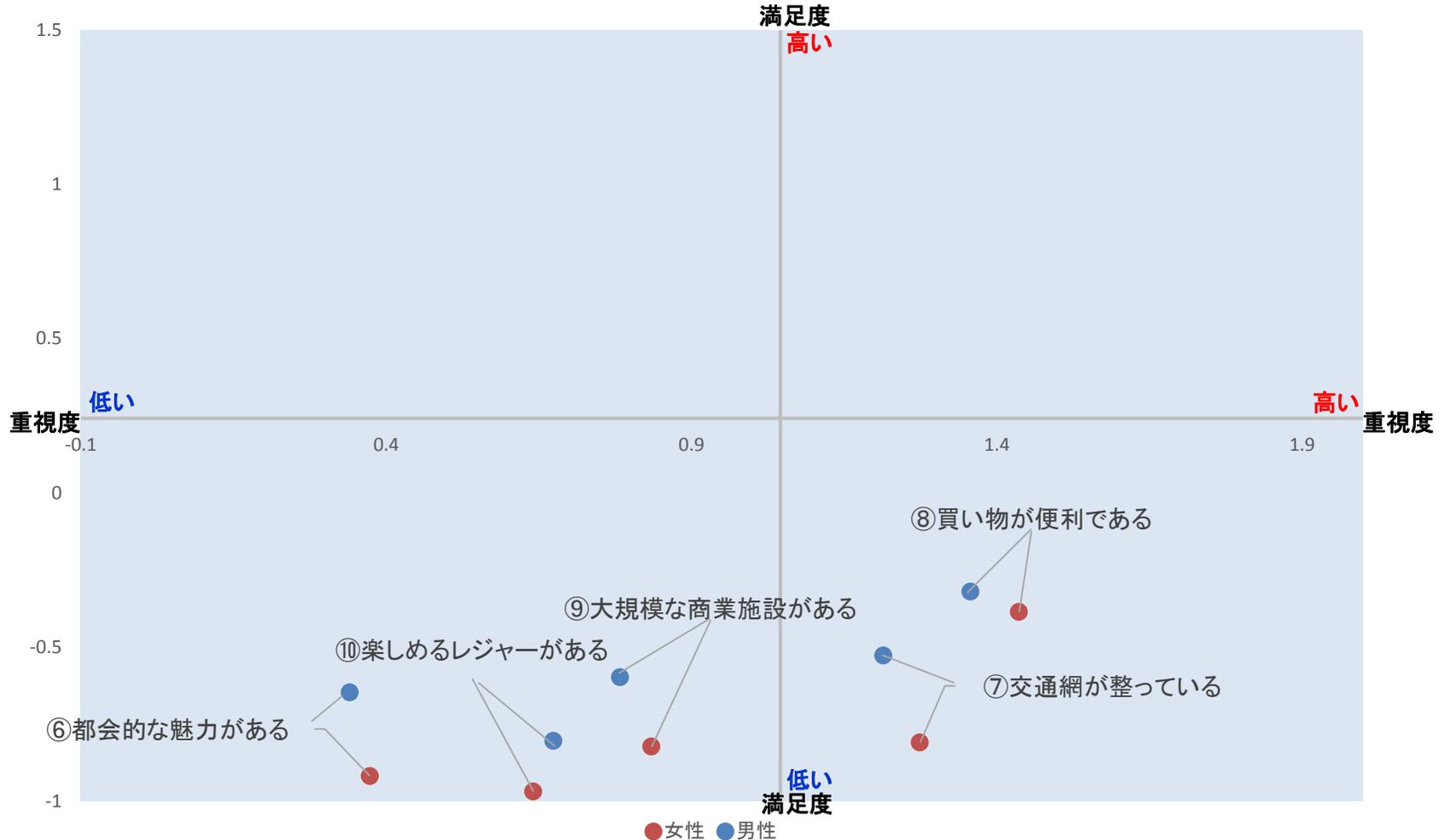
- 「①自然が豊かである」の満足度は、女性が高い。
- 「③歴史や伝統がある」の重視度が女性には特に低い。



重視度と満足度の関係性(男女比②)

- 「⑥都会的な魅力がある」「⑦交通網が整っている」「⑨大規模な商業施設がある」「⑩楽しめるレジャーがある」の項目で、男性に比べて女性の満足度が低い。
- 「⑧買い物が便利である」は、男女ともに重視度は高いが、上越市に対する満足度は低い。

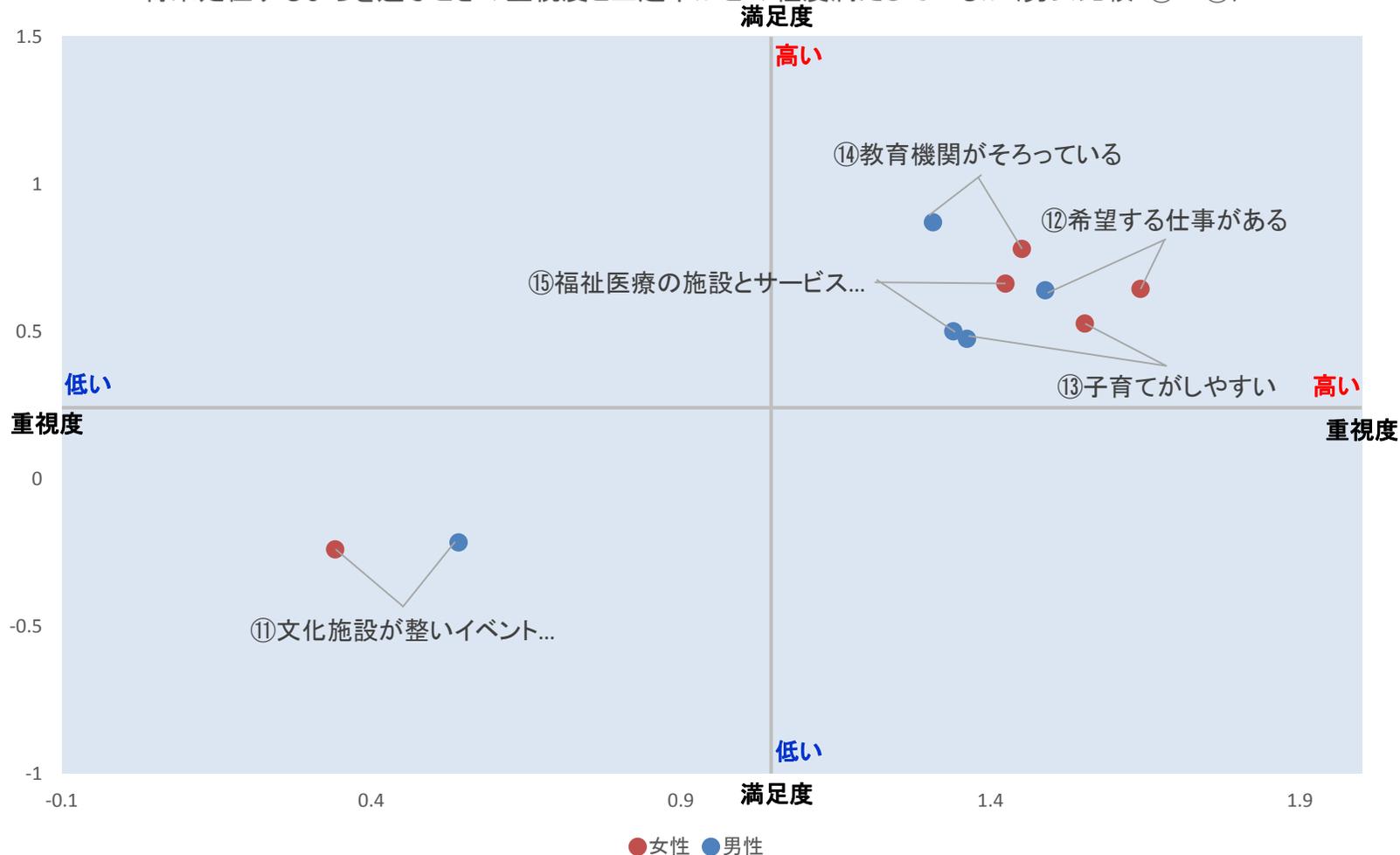
将来定住するまちを選ぶときの重視度と上越市がどの程度満たしているか(男女比較:⑥~⑩)



重視度と満足度の関係性(男女比③)

- 「⑫希望する仕事がある」「⑬子育てがしやすい」「⑭教育機関がそろっている」「⑮福祉医療の施設とサービスが整っている」は、男女ともに重視度が高いが、全てにおいて男性よりも女性がより重視している。
- 「⑪文化施設が整いイベントが多い」は、重視度が低いが、男女でみると男性の方が高い。

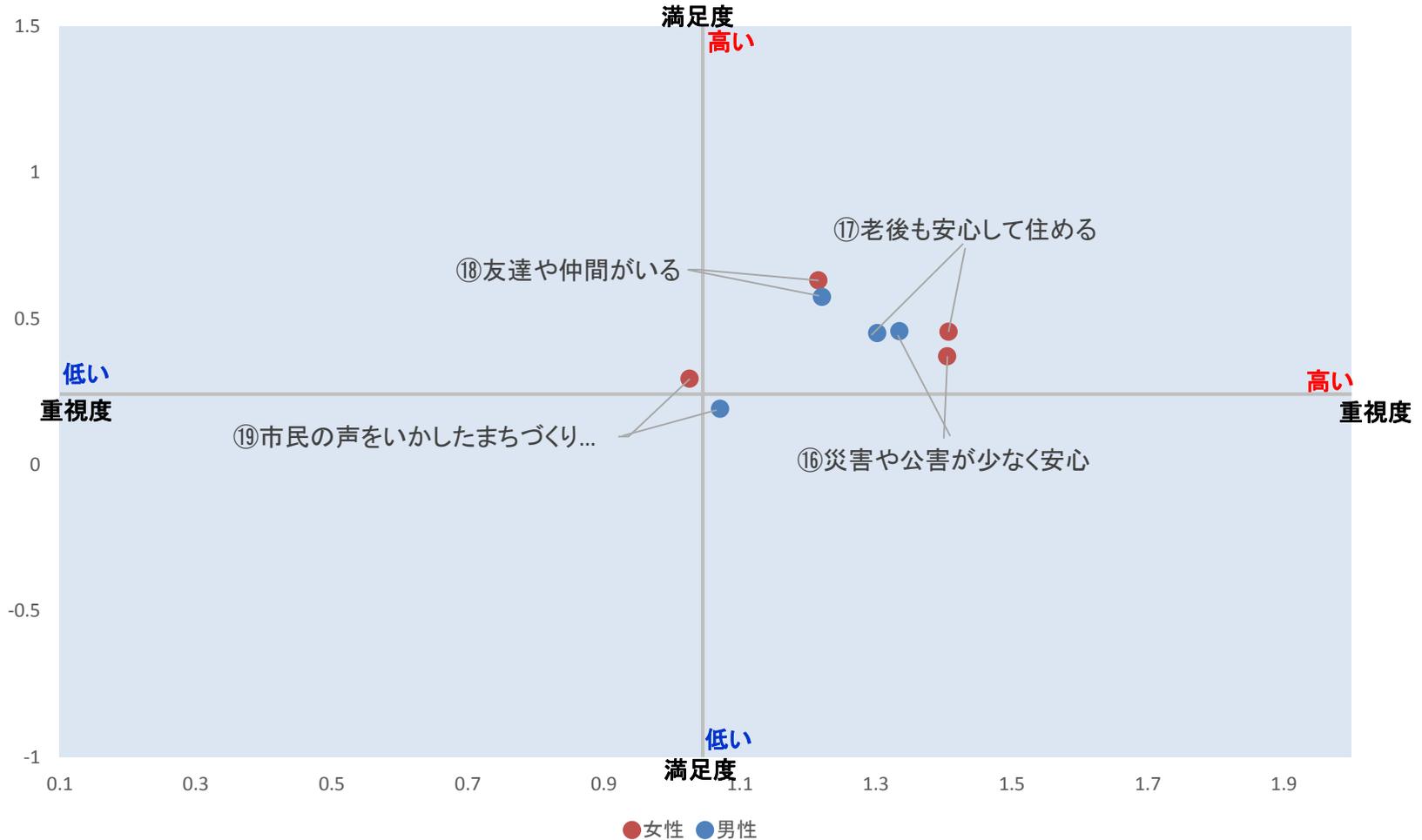
将来定住するまちを選ぶときの重視度と上越市がどの程度満たしているか(男女比較:⑪～⑮)



重視度と満足度の関係性(男女比④)

- ⑬～⑱においては、男女において大きな差は見られないが、「⑬災害や公害が少なく安心」「⑭老後も安心して住める」においては、女性の重視度が高い。

将来定住するまちを選ぶときの重視度と上越市がどの程度満たしているか(男女比較:⑬～⑱)



重視度と満足度の関係性(まとめ)

【重視度と満足度の関係性まとめ】

- 男女ともに、定住するまちを選ぶときの重視度は「⑫希望する仕事がある」が最も重視度が高い。
→若者世代の希望する職種を増やすことが重要
- 女性は、男性と比べて「⑫希望する仕事がある」「⑬子育てがしやすい」「⑭教育機関がそろっている」「⑮福祉医療の施設とサービスが整っている」などの生活に直接関係がある項目をより重視する傾向が見えた。反対に、「①自然が豊かである」「③歴史や伝統がある」「⑪文化施設が整いイベントなどが多い」など、生活に直接関係がない項目は、男性と比べて重視度が低い。
→大学を卒業した女性に魅力ある雇用を増やすとともに、子育てがしやすいなど、上越市の生活環境の良さを伝える取組が重要
→市内大学は、女性の学生の割合が高いことから、大学卒業後も当市に定住してもらえる取組を進めていくことが必要
- 「⑦交通網が整っている」「⑧買い物が便利である」は、重視度が高いが上越市に対する満足度が低い。
- 重視度は低いが、「⑥都会的な魅力がある」「⑨大規模な商業施設がある」「⑩楽しめるレジャーがある」の女性の満足度が低い。